

■大内義興 戦国大名。第30代大内氏当主。室町幕府管領代として将軍の後見人となり、7ヶ国の守護職を兼ねた。

おおうちよしおき

応仁の乱終・1477＝ 大内氏の第29代当主大内政弘の子に生まれる。幼名は亀童丸。

太田道灌暗殺1486＝ 9歳：

足利義政没・1490＝13歳：

- ・ ・ ・ ・ ・ 1492＝15歳：六角高頼討伐(長享・延徳の乱)に参戦。
- 明応の政変・1493＝16歳：この年、将軍足利義材が管領細川政元によって廃され、越中に逃亡、新将軍足利義澄になる。
- ・ ・ ・ ・ ・ 1494＝17歳：***父政弘が病気で隠居、家督を譲られて大内氏の第15代当主となる。以後、父の政策を継承強化、**
- 早雲小田原城1495＝18歳：父が死去すると、長門守護代の内藤弘矩が弟の隆弘を擁立しようとしたと陶武護に讒言され、それを信じて弘矩と子の弘和を誅殺してしまう。後に内藤父子の冤罪を知り、讒言した武護を誅殺し、弘矩の娘を正室に迎えて内藤氏を再興させている。北九州で大友氏や少弐氏らと合戦を繰り返しながら、父の代の領土であった周防、長門、豊前、筑前に加え、安芸、石見の守護職を兼ねるほかに肥前の一部にも勢力を広げた。
- ・ ・ ・ ・ ・ 1496＝19歳：大友氏の内紛に介入して大友政親を処刑し、自らが擁立する大友親実を大友家の後継者にしようとしたが、政親の弟大友親治の反抗によって失敗。筑前国守護職兼職、
- ・ ・ ・ ・ ・ 1497＝20歳：九州探題の渋川尹繁を救援するという名目で肥前に出兵。少弐政資・高経父子を攻め、害に追い込んで北九州に勢力を拡大。
- 蓮如没・ ・ ・ 1499＝22歳：「防長両国半済法度条々」を発令するとともに、惣国寺社領で糺明に応じなかった寺社の得点を没収するなどして、**_寺社・給人・領民の犠牲の上に、軍事力の強化を図り、**
- ・ ・ ・ ・ ・ 1500＝23歳：この年、後柏原天皇が即位。**_明応の政変で京都を追われた前将軍足利義尹(義材より改名、後の義植)が流浪の末、山口に頼りに訪れると、大友氏や安芸・石見の諸氏による包囲網に対抗して保護、**
- ・ ・ ・ ・ ・ 1501＝24歳：日本海側守護への政治工作のため、雪舟を丹後に派遣。政資の三男資元が挙兵し、
- ・ ・ ・ ・ ・ 1504＝27歳：
- ・ ・ ・ ・ ・ 1506＝29歳：大友親治と連合して大内領に侵攻する気配を示す。
- 細川政元殺害1507＝30歳：足利義尹の仲介により少弐資元と和睦し、北九州の勢力を保つうち、足利義澄を11代将軍に擁立して幕政を牛耳っていた**_細川政元が暗殺され(永正の錯乱)、**その後も細川氏内部では抗争が続いたため、畿内進出の好機と見て、前将軍足利義尹の上洛を口実に進発、その間、細川家では、政元の養子細川高国が義興と通じて、**同じく政元の養子である細川澄元と対立・抗争し、**
- 義植入京将軍1508＝31歳：***細川澄元は高国・義興らに圧迫され、足利義澄と共に近江に逃走。足利義澄を奉じて上洛を果たし、将軍職に復帰させる。帰国しようとしたところ、将軍の要請もあって、京都の秩序維持のために留まるよう朝廷から慰留され、それに応じたところ、従四位に昇進(朝廷が自発的に提案した稀有な例)。率いてきた大軍はそのまま幕府の支柱となり、自らも左京大夫・管領代として、管領細川高国と共に幕政を執行する立場になる。また軍功を賞され山城守護も与えられる。**
- ・ ・ ・ ・ ・ 1509＝32歳：足利義澄方はたびたび反政。豊前国守護職兼職。**_父政弘が親交した三条西実隆を介しての要請に、横領して来た周防国の東大寺領を返還。後柏原天皇との間に、贈答を交わすなど、早くも親密な関係を構築、**
- 朝鮮三浦の乱1510＝33歳：細川高国と共に近江に侵攻するが、逆に敗北。**_三浦の乱で朝鮮交易が行き詰まると、日明貿易に専念、**
- 遣明使・ ・ ・ 1511＝34歳：摂津に侵攻してきたため、細川高国と共に迎撃するも、摂津でも和泉でも敗北して丹波に逃走したが、足利義澄が急死するなどの好条件にも助けられて、船岡山城の決戦で細川澄元軍を破り、京都を奪還。**_西芳寺を訪れた際にも、和歌を詠じたところ、天皇から自筆の御製を賜るほどになり、**
- 早雲相模攻落1512＝35歳：その功により、**_従三位に昇位されて公卿に列せられ(これまた天皇が官位昇進を主導する異例さで、大内氏当主が初めて生前昇進した例にもなった)、娘を足利義維に嫁がせ将軍家の親族にもなるが、**
- ・ ・ ・ ・ ・ 1513＝36歳：
- ・ ・ ・ ・ ・ 1514＝37歳：左京大夫を去る。
- 義興遣明船・1516＝39歳：**_日明貿易(遣明船派遣)の管掌権限を恒久的な特権とする御内書と奉行人奉書が与えられるが、細川高国の反対を押し切ったもので、後の寧波の乱の原因となるなど、次第に足利義澄や細川高国と不仲になり、寺社・給人・領民の不満も増大するなか、領国に出雲の尼子経久が侵攻してきたため、**
- 義興周防帰国1518＝41歳：***管領代を辞して堺を出発、山口に帰国。**
- 安芸厳島神主家の継嗣争いに乗じて同神領を支配下に置いて、
- ・ ・ ・ ・ ・ 1522＝45歳：安芸・石見に出兵し、連年のように尼子氏と戦うが、留守中に勢力を伸ばしていた尼子経久の勢いは衰えることが無く、思うように戦果が上がらず、
- 寧波の乱・ ・ ・ 1523＝46歳：石見の波志浦を攻略され、安芸では大内家に従属していた毛利氏が尼子方に寝返った。尼子経久は毛利家当主毛利幸松丸の後見役の毛利元就を利用して、大内氏の安芸経営の拠点である安芸西条の鏡山城を攻略させるなどして、一時は大内氏を圧倒。
- ・ ・ ・ ・ ・ 1524＝47歳：ようやく安芸厳島に進出して、佐東銀山城の攻防戦で尼子軍を撃破し、
- ・ ・ ・ ・ ・ 1525＝48歳：筑前で徳政一揆。毛利氏が再び帰参して、安芸における勢力をやや回復。尼子氏も山名氏らとの戦いで消耗し、石見における勢力も奪還。さらに北九州の少弐資元らとも戦い、**_ようやく有利に戦況を進めるなか、**
- 以後管領不在1526＝49歳：**後柏原天皇の崩御に続くように、**
- 大内義興没・1528＝51歳：***安芸門山城攻めで病に倒れ、山口に帰還直後に没した。**